

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 月 日	
所属部局・職	(公財) 日本モンキーセンター 附属動物園部 飼育員
氏名	小泉有希

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
東京国際フォーラム
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
丸の内キッズジャンボリー2018 への参加
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 30 年 8 月 16 日～平成 30 年 8 月 17 日 (2 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
東京国際フォーラム
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>丸の内キッズジャンボリー2018 は、東京国際フォーラムにて 8/14 (火)～8/16(木)の日程で開催された。報告者はこのうち、8/16 (木)の JMC ブースでの来場者対応、およびトークイベント『動物園とっておきのヒミツの話』の第 2 部を担当した。</p> <p>丸の内キッズジャンボリーへは、昨年に引き続き、参加させていただいた。昨年と比較すると、部屋の真ん中に仕切りがない分、全体を見通すことができ、どこに何のブースがあるか分かりやすい配置となっていた。また、今回来場者はスタンプラリーという形で各ブースを回ることができ、ルールも簡単で取り組みやすいように感じた。</p> <p>報告者が担当した JMC ブースでは、(公財) 日本モンキーセンターの紹介や活動をパネルやチラシで行い、霊長類の頭骨レプリカや、本物の毛皮を触って霊長類を知ってもらうことを目的として行った。また、サルの形態的特徴をヒントにした『サル類の種名当て』クイズも行った。このサル類の名前当てクイズに興味を抱く子どもが多く、サルの写真からヒントとなっている形態的特徴を一生懸命に探している姿は印象的であった。着眼点が鋭くてすぐに答えが出てくる子や、新しい特徴を見つけて名前を付ける子もいた。クイズの中でニホンザルの正答率が高く、多くの方が知っているのは納得できる結果であったが、マントヒヒやワオキツネザルの名前も同じくらい知っている方が多いことには驚いた。</p> <p>トークイベント『動物園とっておきのヒミツの話』の第 2 部では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物の分類 ・サル類の個体識別 <p>の話を行った。</p> <p>前者は、動物のシールを用いて、動物同士の共通点を各自で見つけて分類し、オリジナル図鑑を作る、というものである。動物の種は、無脊椎動物から脊椎動物まで、水生や地上生など、見つけた共通点によっては幾通りにも分けられるように、様々な分類群から抽出した。</p> <p>結果、報告者が予想した、移動方式(泳ぐ、飛ぶなど)や、脚の数で動物を分ける子どもたちもいた。しかし、硬い柔らかいという触感、地上を歩くかどうか、動き方(によろよろする、など)に着目して、面白い分け方をする子どももおり、大変興味深かった。</p> <p>後者の『サル類の個体識別』は、普段報告者が飼育管理をしているワオキツネザルの写真で行った。飼育スタッフが見分けているポイントをいくつか紹介し、それに基づいて個体を見分けるクイズである。今回用意した写真が、すべて正面顔かつ若干背景も入っており、見分けることがとても簡単であった。</p> <p>実際、子どもたちも次々に正解し、次に同じクイズを出す場面があれば、改良が必要であると感じた。</p> <p>昨年同様、今回もハンズオンや体験型ブースが多く、楽しく学べる場が多かった。チンパンジーの個体識別クイズは、正面顔のみならず角度を変えた写真があり、ワオキツネザルでも使えると感じた。また、サル類と人の色覚や味覚の違いを体験できるブースがあり、モンキーセンターでも実施できれば、より霊長類への理解が深まると感じた。</p>

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



↑サル類の種名当てクイズ



↑『生きもの図鑑』

動物の共通点を見つけ出し、各自で分類してオリジナル図鑑を作製。

各ページに空いたところには、帰ってから見つけた動物の絵や写真を貼ってもらうように促した。



↑『サルの個体識別』

ワオキツネザルの見分け方ポイントを紹介してそれに着目し、数枚写真を出したときに、同じ個体が違う個体かを見分けてもらう。

6. その他 (特記事項など)

本出張の機会をくださいました、松沢所長はじめ PWS の方々には感謝申し上げます。
また、霊長類研究所、野生動物研究センターの学生、研究者、さらには会場である東京国際フォーラムのスタッフのみなさまに温かいご支援をいただきましたので、この場を借りて御礼申し上げます。